

台湾南西部に湧出する温泉の化学的性質について Chemical characteristics of hot springs in Southwestern part of Taiwan

菅井 秀翔^{1*}; 田中 秀実¹; 照沢 秀司¹; 角森 史昭²; 村上 雅紀³; 川端 訓代²
SUGAI, Shuto^{1*}; TANAKA, Hidemi¹; TERUSAWA, Shuji¹; TSUNOMORI, Fumiaki²; MURAKAMI, Masaki³; KAWA-
BATA, Kuniyo²

¹ 東京大学大学院理学系研究科, ² 東京大学大学院理学系研究科附属地殻化学実験施設, ³ 応用地質株式会社
¹School of Science, The University of Tokyo, ²Geochemical Research Center, Graduate School of Science, The University of
Tokyo, ³OYO Corporation

台湾はユーラシアプレートとフィリピン海プレートの境界をなすマニラ海溝と琉球トラフの接合点に位置し、東部ではフィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込んでいる一方で、台湾西部ではマニラ海溝においてユーラシアプレートがフィリピン海プレートの下に沈み込んでいる。このプレート境界は台湾南部の高雄市の付近で地上に乗り上げており、以北ではプレート境界が活断層として地表に現れている。多くの断層が北東-南西方向に発達しており、これらの断層からは多くの温泉が湧出し、特に南部の高雄県においては泥火山も見られる(浜田ほか, 2009)。

その中で本研究では台湾南西部、台南市や嘉義県に湧出する温泉に着目した。台湾西部ではプレート境界が陸上に活断層として表れており、この断層の東側 20 km 付近に列状に 34~70 °C の温泉が分布している。これらの温泉から採取された温泉水について各種化学分析を行った。本発表ではこれらの結果を報告する。

キーワード: 台湾, 温泉

Keywords: Taiwan, hot springs